

摘 録

会 議 名 令和5年度第2回刈谷市歴史博物館協議会

日 時 令和6年3月8日（金） 午後3時00分～5時20分

場 所 歴史博物館 1階講座室

出 席 者 協議会委員：西宮秀紀（会長）、山本智子、山田孝、真島聖子、田中仁、緒方昭文、
鈴木三千子、成田年秀

※堀江登志実委員、石橋保尚委員は欠席（敬称略）

事 務 局：鷹羽課長、田代館長、新田館長代理、長澤学芸員、山下学芸員

内 容

1 あいさつ

2 議題

（1）令和5年度の状況について

（A委員）年度末に入館者数が4万人近くなるとのことだが、開館からの伸びはどうか。

（事務局）2年目のコロナによる3か月休館の頃から比べて、右肩上がりが増えてきている。

（B委員）考古の展示は説明が難しくなりがち。バスツアーで実際に現地を見られることは良い。

（C委員）紀要は他館の方にも寄稿してもらっており盛況な印象。ノルマではないが、館の学芸員が3～5年に1本は書くなど上手く循環して出来ると良い。

（D委員）次年度に向けて、今年度の大きな成果と課題は何か。

（事務局）成果は、新規事業として歴博ゼミナールを開催したこと。展示資料に関心を持っていた
だき、調査研究に繋がって、その成果を市民に発表する場となった。今後も継続していき
たい。課題は、若い人、歴史に興味のない方が一定層いる中で、その方々に足を運んでも
らうこと。

（D委員）井ヶ谷古窯展のハイウェイオアシスでのイベントは盛況であった。ただ、若い人もそこ
に来て終わりになってしまうので、例えば土日のみでも歴博へのチャーターバスを運行す
るなどして人を循環させられると良い。

（2）令和6年度の予定について

（E委員）小・中学生に向けた事業の継続は良いことだが、さらに上の高校、大学、社会人の方が
来館することも視野に入れて欲しい。

（事務局）課題ではあるが、一部企業には新人研修の場として利用していただいている。今後はP
Rやプログラム作成などを行いたい。

（B委員）考古が2年連続で夏の無料展となっている。図録が出せていないのは残念に思う。

（事務局）令和7年度以降のことにはなるが、考古の有料展開催も検討している。

（3）「刈谷市歴史博物館基本運営方針」の見直しについて

（C委員）リピーターは直感的には「個人」。しかし、学校関係も毎年の見学など組織としてリピー
ターであるという認識で書き方を変えると良い。

（F委員）講演会参加者は同じ人が来る割合が高いが、講演会以外ではあまり来館していない。ど
う引き込むかは課題。

（D委員）若い人や産業は別の意味で中核となる。企業展示室との連携も必要。そうなると企業の
人も来るようになる。「中核」と言うが、一方通行ではなく、市民と一緒に双方向の動きを
もって刈谷の未来をつくるビジョンを持てると良い。

- (B 委員) 民俗分野が不在とのことだが、増員の見込みはあるのか。
- (事務局) 現状、増員予定はない。今いる学芸員で対応できることを示した。
- (F 委員) [祭り保存伝承機能について] 小垣江でのみ「おまんこ」が継続されているが、近年問題となっている動物虐待との指摘で中止に追い込まれる可能性がある。早急な記録保存・調査が必要。
- (A 委員) 市史には民俗編がない。次期編さんにおける最重要課題であろう。[アーカイブズ機能について] 図書館との役割分担を明確にし、やり残しや遅れが無いように。
- (E 委員) デジタルデータの保管はどうしているか。災害時の管理方法も課題。
- (事務局) データのほとんどは、まだ個々の HDD 等のみある状態。ネットワーク型サーバー (NAS) は設置されているが、データの移し替えは進んでいない。
- (C 委員) 導入している早稲田システム開発の収蔵品管理システムはクラウド型でデータ容量の制限もないので上手く活用してもらいたい。
- (F 委員) [埋蔵文化財保存活用機能について] 野焼きは消防からは止められてしまう。どんぐり広場の活用方法は検討が必要。
- (C 委員) 堤防が切れたらどうするかについて、ハザードマップも対照しながら考えること。
- (A 委員) キャッシュレス決済はすぐにできそうだが。
- (事務局) キャッシュレス決済の導入は機器の入れ替えが必要になるので予算が必要。予算措置が出来るようになった段階で行いたい。
- (F 委員) 歴博に来るかりまる (バス) の 3 本は、東刈谷―逢妻線のみ。北部から直接来る路線がないが、路線の改定はないか。
- (事務局) 令和 7 年に改定の予定があると聞いているが、どうしても刈谷駅が中心になることから、北部から直接というのは難しい。
- (F 委員) 上手く乗り継ぎが出来るようになると良い。

< 次回の協議会日程について >

- (事務局) 次回は令和 6 年 5 月頃に開催する。